

日本学術会議 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会（第5回）

議事要旨

日時 2012年6月26日（月）17:00-19:20

場所 日本学術会議 5-C（1）会議室（5階）

出席者 荒川委員長、松沢副委員長、長野幹事、伊藤委員、岡田委員（途中から出席）、岩本委員、大隅委員、樋口委員（陪席：事務局（石原参事官 他））

配布資料（添付省略）

- (1) 前回議事要旨（案）
- (2) 分科会委員名簿

議題

1) 前回議事要旨(案)の確認

前回の議事要旨について一部修正の上、了承された。

2) マスタープランの策定法について

- ・ 前回の分科会で行われたマスタープランの目的・位置づけに基づき、具体的計画の策定について議論された。
- ・ その結果、マスタープランとして、
  - ① 学術分野のビジョン・体系に立脚した大型施設計画・大規模研究計画（以下、“学術大型研究計画”と呼ぶ。第4回議事要旨における大型研究Aに対応）を策定する。
  - ② “学術大型研究計画”の中で、速やかに予算化すべき大型施設計画・大規模研究計画（以下、“重点大型研究計画”と呼ぶ。第4回議事要旨における大型研究Bに対応）を策定する。

上記の二計画を策定する方向で話し合われた。

- ・ マスタープランの具体的計画に関しては、日本学術会議会員、連携会員、分野別委員会に協力を求め、更に学協会との連携を図ることが提案された。
- ・ 特に、今回の改訂では新たに分野別委員会との協力が計画されているが、これは日本学術会議の強化を意図したものであり、学術の体系化を図ることを目的に分野別委員会で“重要学術研究領域”を制定する事が討議された。
- ・ 枠組みとして、“重要学術研究領域”内に前述の複数の“学術大型研究計画”が所属することになる。
- ・ 特定の研究分野・研究領域への所属が難しい分野横断型の提案についての取り扱いも議論された。
- ・ 評価項目、計画数、提案資格、予算規模、選考方法などについても話し合われた。
- ・ “重点大型研究計画”の選定に関しては文部科学省及び関係省庁とのプロジェクトとの緊密な連携の重要性が指摘された。

- ・ 荒川委員長が次回の分科会開催日である7月12日までに今回の分科会の討議内容をまとめ、次回以降の議論の素案とする事とした。

3) 今後の進め方について

次回は、第5回までの議論を深め、マスタープランの策定の最終案を決めるために、具体的に内容を詰めていくこととした。

4) その他

次回は、7月12日(木)10時から開催の予定。

以上